

# はしど

練馬区立橋戸小学校  
学校だより 第11号  
令和2年 2月28日  
校長 青木 俊哉  
<http://www.hashido-e.nerima-tyky.ed.jp/>

☆学校教育目標

考える子・思いやりのある子・たくましい子

## おわりとはじまり・・・自分らしさの発見

校長 青木 俊哉

いよいよ3月、今年度最後の月を迎えました。今年度一年間を振り返り、新しい年度のスタートの準備をする…、そんな時期となりました。私自身の今年度を振り返りますと、本校に着任早々の昨年度と比べ、増えた仕事や役割がいくつか挙げられます。その中の一つに、練馬区社会科副読本編集委員という役割があります。これは、3・4年生が使う『私たちの練馬区・東京都』という“教科書に準じた”練馬区用の副読本を、新学習指導要領全面実施にあわせ、内容を改訂し作成する仕事です。教育委員会の指導主事1名を事務局に、区内の小学校長3名、副校長3名、教員16名が委員となり、校長は全体を統括、副校長と先生方が分担して執筆しています。平日、自校での勤務を終えた後に集まり、各自が分担して作成した原稿や写真、資料について意見を交わします。私は今年度からですが、多くの方はこの二年間、月1～2回のペースで議論を重ね、その都度書き直し、修正した原稿を基に改めて意見交換を繰り返し、業者に入稿する…という流れで進められ、ようやく最終稿が入稿したところです。委員の先生方は、社会科の研究や授業実践の経験豊かな教員たちですが、子供たちが使う本を作る作業は、表現・表記、資料、内容などポイントも多く、簡単なことではありません。資料収集や写真撮影、原稿の執筆、検討…、時間を超えての仕事への熱意には、本当に頭の下がる思いです。

さて、こんな一年を振り返りながら、自分が社会科好きであることを、改めて思い返しました。そういえば、いつ頃から、どのようにして好きになったのだろう…と考えてみました。好きになったきっかけは幼稚園の頃、そもそもテレビの天気予報が大好きで、ヤン坊マー坊の前にかじりつくような子でした。鉄道も好きで、出かけると駅名を覚えて帰り、得意気に大人に言って歩く、そんなことを思い出します。もらい物の高等地図帳を大事に持ち歩き、路線図を描く、駅名を読んだり書いたりするために漢字を知りたがる…ちょっと変わった子だったかもしれません。4年の時の社会科見学（工場見学）に嵌り、その後自主的にあちこち行きたがる子になり、高学年の自主学習ノートには、地図旅行（地図帳と時刻表を手掛かりに想像して書く旅行記・紀行文のようなもの）ばかり書く、そんな子に育っていきました。中学以降も社会科、中でも地理と政経好き、結局大学でも社会科を選び、地理学専攻の学生になりました。在学中、気候学と交通地理学、どちらのゼミ（研究室）にするかを悩んだのも、原点は天気予報と路線図と考えると、妙に納得できます。小学校の教員になって最初に取り組んだ大きな仕事は、東村山市の社会科副読本の編集でした。「安全なくらし」の単元の執筆を任せられ、社会科の指導主事の先生に鍛えていただきました。その先生とは、先月飲食を共にする機会があったのですが、当時のことをよく覚えていてくださり、改めて激励されるとともに、懐かしく嬉しく思ったものです。

長々と昔話を記してしまいましたが、子供たちには、“好きなことは、とことん長く付き合うもの”として大事にしてほしい、一生ものになる“自分らしさ”を見つけてほしいと思っています。“自分らしさ”、いわゆる個性や特性は、間違いなく“自分の強み”になります。欠点を探して補うことも大切なことですが、これからの世の中、強みや良さを見出し、生かし、伸ばしていくことが、それ以上に大切になると考えます。私自身の話が参考になるかはわかりませんが、年齢を重ねた者が実際に経験した話として頭の隅にでも置いていただき、時に役立ててもらえると、嬉しく思います。

あとひと月で4月、希望を胸に6年生は中学校へ進学、5年生までの皆さんも次の学年に進級します。新年度のスタートにあたり、自分らしく過ごし、自分の良さをアピールできる、そんな学校生活が始められることを願っています。そのためにも、今年度最後の3月を上手に過ごし、この一年をまとめてください。

最後になりますが、保護者、地域の皆様には、本校の教育活動にご理解をいただき、多大なるご支援とご協力を賜りましたことに、心より感謝と御礼を申し上げます。ありがとうございました。